

卒業論文の要旨

論文題目	2 つの文化を持つ女性社会人のキャリア意識～日本生まれのベトナム国籍を持つ女性社会人のインタビューを通して～
氏名	武田 陽
メジャー	コミュニケーション
<p>(要旨)</p> <p>本研究では、ベトナム国籍を持つ社会人女性の文化的アイデンティティについてキャリアに着目しながら、21 歳から23歳の日本生まれのベトナム国籍を持つ社会人女性を対象に約30分から1時間の半構造化インタビューを実施した。そのうちの一人は子供がいるシングルマザーである。</p> <p>日本生まれ日本育ちである彼女たちは日本人とあまり変わらないが、書類上の国籍はベトナムということで外国人の枠に入られている。家ではベトナム文化があり家以外では日本文化である。少なからず 2 つの文化を経験している彼女たちはこれまでどういった壁を乗り越えて成長してきたのか。周囲の態度や環境など、どういったことがきっかけで自身がベトナム人だということを受け入れられるようになったのか。また、どのようなことをモチベーションとして外国人でありながらも日本の社会人として仕事を務めているのかを調査した。</p> <p>その結果、GTA (Grounded Theory Approach) により、12 個のカテゴリーが見出された。カテゴリーの名前は、「伝えられないことが悔しいが活かしたい」「嫌なところはあるがベトナムの良さを知ってほしい」「ベトナム人は穏やかでフレンドリーだと感じる」「外国名が嫌だから国籍を変えたい」「資格を取ってずっと仕事をし続けていきたい」「自分は自分だと思う」「家族孝行したいと思う」「自分で自分を受け入れられるようになったと感じる」「目標としている人物はいないと思う」「結婚したいと思う」「意欲が下がったと感じる」「お金が重要だと思う」である。その中で基盤となっているカテゴリーは「自分は自分だと思う」「自分で自分を受け入れられるようになったと感じる」「目標としている人物はいない」の3つである。</p> <p>彼女たちが自分自身を受け入れられるようになったのは自分が外国人でも受け入れてもらえる環境に出会えたからである。周囲から受け入れられそして自身で受け入れるようになった経験により、外国人は周囲に受け入れてもらえないという彼女たちのマイナスな価値観がプラスになったと分かった。その価値観が現在、彼女たちの仕事に対するモチベーションやより日本社会に溶け込む意欲へ繋がっているということも分かった。そして、今まで外国人としての扱いを受けてきたことや受け入れてもらえた経験などにより、それぞれが持っている文化的アイデンティティは場面によって自然と使い分けられているという結果になった。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>本卒業論文は、ベトナム国籍をもちながら日本で育ち、社会人として仕事をするにいたった女性たちの文化的アイデンティティとキャリア意識を質的調査によって明らかにしたものである。筆者自身がベトナム国籍をもち日本社会で育った女子学生であり、ベトナムと日本という2つの文化のアイデンティティをさまざまな場面で感じ、また若い女性でありながら日本社会で明確なキャリア意識をもっていきっているベトナム人の姿がいきいきと描かれている。本研究の成果は、今後ますます外国人労働者との共生、女性の活躍という課題に向きあう日本社会にとって、一つの示唆を与えるものとして高く評価できるであろう。</p>	